# 郷土資料館のお宝探訪

Treasure

郷土資料館の大事な仕事のひとつに、播磨町の歴史を彩る様々な資料の収集や保管があります。本年度は、数ある資料館の収蔵品のうち、代表的なものを紹介していきます。広報はりまの掲載月にあわせ、関係資料を展示します。ぜひ本物を見に来てください。

播磨町郷土資料館　☎079（435）5000

## Treasure 2 狐狸ヶ池で採集されたもう一つの鏡「土製模造鏡」

大中遺跡を代表する出土品のひとつに、「内行花文鏡」という中国で作られ、日本に輸入された青銅（銅と錫の合金）製の鏡の破片があります。この打ち割られた鏡の破片は、専門的には「破鏡」と呼ばれていますが、完全な形をした鏡を意図的に打ち割るということにも重要な意味がありました。

なかには大中遺跡の破鏡のように、割れ口を丁寧に磨いて、紐を通して首からぶら下げるための穴が開けられたものもあります。

この鏡の破片は、大中の人びとが直接に中国と交易し手に入れたわけではありません。一度、福岡県などの北部九州で入手された鏡が、多くなった需要に応えるため、小さく分割され播磨地域に伝わってきたものだと考えられています。

大中遺跡で見つかった小さな鏡の破片は、発見当時は例のないものでしたが、その後、瀬戸内沿岸部を中心に兵庫県内でも同じような鏡の破片が相次いで見つかるようになり、各地の有力者が自分の権威を示すために、新しい文明を象徴する貴重な鏡片を手に入れたと考えられています。

また、弥生時代の終わりごろには、出来栄えはよくありませんが、直径が数センチメートル程度の小さな国産の鏡も作られるようになりました。

さて、今月はタイトルどおり、大中遺跡出土のもう一つの鏡のお話です。

こちらの鏡は専門家か、よほど注意深い「考古学ファン」でないと気付かないような、粘土をこねて焼き物にした小さな鏡の模造品です。一部は壊れていますが、復元すると直径5.2センチメートル、真ん中には紐を通すための鈕もしっかりと作っています。

本物の鏡は青銅製なので、元々は光輝いていたはずですが、小さな破片でも大変な貴重品で、おいそれとは手に入りません。

そこで、大中遺跡の人たちは、本物の鏡をまねた代用品として、粘土をこね、それらしい形にした土製の鏡を作りました。もちろん本物のように姿や形が映るわけではありませんが、光り輝く本物の鏡のつもりでカミさまにお祈りする道具として使ったのでしょう。

この土製の模造鏡は、あまり出土例がなく、大変珍しいものです。また、弥生時代の終りごろに作られたとみられることから、全国でも最古級のもので、大中遺跡の貴重な出土品の一つです。

播磨町郷土資料館　館長　井守徳男

広報はりま　発行／播磨町役場　〒675－0182（個別番号）　兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号　TEL 079（435）0355　FAX 079（435）0609　編集／企画グループ　印刷／㈱岸本印刷所
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association

町の人口　4月1日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,658人（＋33人）　男…16,992人（＋7人）　女…17,666人（＋26人）　世帯数…14,006戸（＋28戸）